

資料4

山形県の新規取組の紹介

山形県 県土整備部 河川課
山形県 農林水産部 農村整備課

河川整備と一体的に行う持続可能な流下能力の向上対策【拡充】 1,501,000千円

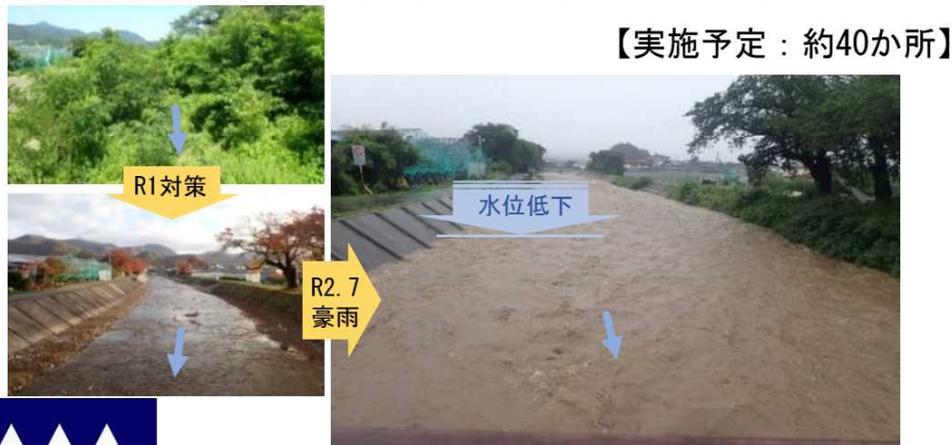
目的

- 氾濫の可能性が特に高い箇所について、堆積土砂及び支障木の撤去を行うことで河川の流下能力を向上させ、県民の安全・安心の確保を図る。あわせて、将来の堆積土砂撤去等の負担軽減のため、再堆積抑制のための流路保全対策（床止め）を行うことで、流下能力確保の持続化を図る。

事業内容

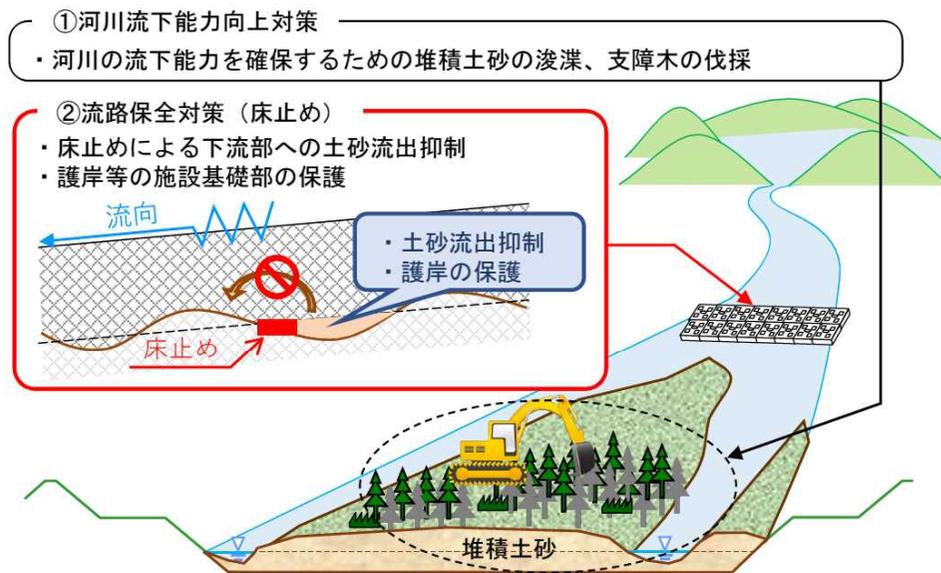
- ① 河川流下能力向上対策 1,054,000千円
堆積土砂及び支障木の撤去を行うことで河川流下能力を確保し、浸水被害の軽減を図る。 【対策予定：約80km】

- ② 流路保全対策（床止め） 447,000千円
流下能力向上対策とあわせ、上流からの土砂流出による再堆積を抑制するため、床止めの設置などを行う。



【実施予定：約40か所】

▲ ①河川流下能力向上対策の効果事例



▲ ②流路保全対策（床止め）の対策後イメージ ▲

【新規】やまがた田んぼダム推進事業費

予算審議中

概要

○近年の気候変動による豪雨災害の頻発化を踏まえた、流域治水対策として有効な「田んぼダム」(貯留機能)の広域的な取組拡大を図るための周知活動の推進

予算額(当初) : 5,700千円

事業期間 : 令和4~6年度

背景/課題

背景

- 近年、全国的に豪雨による災害が頻発
 - ・国による流域治水プロジェクトの策定
 - ・流域関係者連携による総合的な対策の推進
 - ・流域治水への地域住民の理解が不足
- 既存の施設を活用した流域治水
 - ・豪雨に備えた農業用ダムでの事前放流による洪水調整容量の確保
 - ・水田が有する雨水の貯留機能(特に水田の貯留機能に大きな期待)

課題

- 水田の貯留機能効果は下流域で発現するため取組農家のメリット感が薄い
- 集落と農地の位置関係や経路等により河川への流出ピークに差異が発生するため、地区ごとの詳細条件の把握が必要
- 作物生育に影響を与えない範囲での取組が必要

事業内容

【田んぼダム連携事業】

- 事例集作成
 - ・県内及び隣接県外における田んぼダムの取組事例集の作成
- 周知推進活動
 - ・県内7ブロックでの周知活動の実施(地域住民等を対象としたワークショップ開催)
- 推進組織運営
 - ・営農への影響を回避するための排水制御板に関する技術的な検討
 - ・田んぼダムに関する情報共有発信
 - ・現地研修会等の開催(県内・県外)

【田んぼダム貯留機能効果検証事業】

- 貯留機能効果の実証ほ場設置
 - ・設置位置及び排水調整板の検討
 - ・実証ほ場設置1管内2農区(15ha×2)
- 調査解析
 - ・流量観測(自動水位計による観測)
 - ・湛水シミュレーション解析

事業効果

- 集中豪雨を一時的に水田に貯留することにより流出ピークが抑えられ、下流域での冠水被害リスクの軽減が図られる。
- 流域関係者との連携強化や地域住民への周知推進活動により、流域治水に対する理解と防災意識の高揚が図られる。

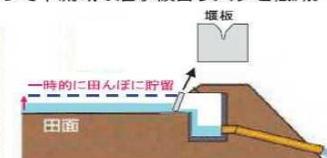


豪雨による洪水ピーク時の排水路の溢水状況

R2.7月豪雨におけるポンプ場冠水状況

水田の活用(田んぼダム)

- 田んぼダム(排水口への堰板の設置等による流出抑制)によって下流域の湛水被害リスクを低減。



事業目標

・田んぼダム取組面積 R2(現状) 1,599ha ⇒ R8(目標) 6,377ha

※山形県農業農村整備長期計画

問い合わせ先

- 担当課 : 農村整備課 利水・施設担当
- 電話 : 023-630-2497